



諏訪湖クラブニュース No. 11

もくじ

平成 23 年度 年度初めのご挨拶	-1-
総会および記念講演会のご報告	-2~3-
諏訪湖チャリティ・ウォークの報告	-4-
沖野会長 二つの受賞	-5-
メールアドレスの登録のお願い	
理事会報告	-6-

平成23年度 年度初めのご挨拶 会長 沖野外輝夫

諏訪地方では、平成 23 年は何かと不安の多い年と感じる方々がありましたが、3 月 11 日の東日本大地震、それに続いての大津波は想定外の災害でした。さらに、人災とも言える原子力発電所の事故が追い打ちをかけ、被災地域の方々に過大なご負担をおかけすることになりました。被災された方々、被災関係者の方々に心からお見舞いを申し述べます。

さて、平成 23 年度総会が 5 月 8 日に開催されました。その内容に関しましては本号に概要を記載していますので、ご参照下さい。被災地への義援金に関しましては、平成 22 年度分会費の中から長野県栄村へ直接 10 万円を納入したことは総会でも報告しましたが、平成 23 年度分の会費からも改めて 10 万円を日本赤十字社に納入することを承認していただき、現在処理を進めています。直接の支援に関しましては諏訪湖クラブとしてまとまった活動はできませんが、個々の会員の方々がそれぞれに活動されているかに聞き及んでいます。それらの情報についてはご本人のお許しがあればニュースでも紹介させていただきます。

平成 23 年度の事業としては前年度からの継続が主となり、新規に始める予定のプロジェクトは今のところありません。当初から活動してきた諏訪地域エネルギー協議会の仕事は、今期から始まる長野県地球温暖化対策課による信州自然エネルギー協議会（仮称）の活動の諏訪版として発展、具体化することになります。活動の進み具合についてはニュース、その他の広報手段でお知らせしますので、興味のある方は是非協議会にも参加し、諏訪地域独自のエネルギーの地産・地消計画などの提案、具体化へ向けての活動にご協力ください。

もう一つの具体的なプロジェクト、「諏訪湖浄化への二枚貝の利用と真珠養殖」に関しましては、すでに信州大学山地水環境教育研究センターにおいて、諏訪湖内と実験室内での実験研究が始まっています。今年度は長野県水産研究場諏訪支場や諏訪湖漁協のメンバーにお願いして、養殖研究もスタートさせる予定です。さらには、淡水真珠の利用を検討する部会の活動も広げていく予定です。このプロジェクトにも積極的にご参加をお願いします。このプロジェクトは諏訪湖の自然再生を目的としています。地域振興の一環としての淡水真珠、シジミなど、二枚貝の養殖による水産業の振興、ならびに観光業への寄与など、地域の自然と住民の生活との持続的な関係を模索することも目的としています。夢のような話ですが、夢を実現するための架け橋ともなれば楽しいと考えています。会員皆様のアイデアをお寄せ下さい。

諏訪湖クラブの活動は会員個々の活動の集合ですので、個々の活動の報告、会員への呼びかけにもニュースをご利用ください。また、理事会での報告、個々の活動の情報等を会員に速やかに伝達するために、できればメールの使用を積極的に行っていきたいと考えています。メールでの伝達をお許し頂ける方は、事務局までメール・アドレスをお伝えください。

今年が、災害を乗り越えて、新たな地域再生の元年として歴史に残る年となることを期待しています。

総会 および 記念講演会のご報告

5月8日(日) 平成23年度総会を諏訪市文化センターにて開催し、全ての審議を賛成多数により可決し、無事終了することができました。(正会員総数128名、当日の出席22名および委任状62名 出席者総数84名。本会規約第20条『出席者数が会員総数の5分の1を超えれば総会は成立』)

なお、総会にて、東日本震災義援金を23年度会費より日本赤十字宛に送ることが承認されました。本年度予算には当初計上されておりませんでした。予備費より支出するということがご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

総会にお出席の皆様、委任状をお送りいただきました皆様、ありがとうございました。ご欠席の皆様には、過日総会資料とともに会費納入のお願い文書を送付させていただきました。早々にお払い込み下さった皆様、心より御礼申し上げます。

五味光一先生のご講演

「料亭 信濃」茶室 建物調査の今後について

本年度の総会記念講演は、建築士会諏訪支部まちづくり委員会のメンバーでもある五味光一会員(一級建築士 建築士会諏訪支部のまちづくり委員会所属)にお願いいたしました。

五味先生は、高校時代ボート部のコックスで声の大きさには自信があるとマイクなしで話始められました。

料亭信濃について、A3の調査報告図面が13枚と、A3カラー写真68葉が会場に配布されました。その充実した資料に、出席会員一同が驚きました。講演は、京都の安井清先生が料亭信濃へおたずねくださった折の語録を、キーワードにしながら、信濃がいかに価値のあるものかをお話くださいました。加えてパワーポイントでは、配布資料に加えて、数々の写真、古地図、古文書等をふんだんに使い、竹材を生かした信濃の価値についてご紹介くださいました。

五味先生 ありがとうございます!!

五味先生のご講演のベースとなった、安井清先生の語録をご紹介します

世界に誇れるものは竹、日本は凝縮の美

～ 安井清先生語録 料亭信濃にて～

安井清氏 略歴 伝統建築家。1925-2010年。京都府向日市出身。江戸時代から続く大工集団の家系に生まれる。1945年に立命館大学卒業、家業の安井杵(もく)工務店に入社し、数寄屋を中心に伝統建築を手がけた。千利休の遺構、茶室「待庵(たいあん)」(国宝)の修理をはじめ、国宝茶室「如庵(じょあん)」の移築などに携わる。ニューヨーク・メトロポリタン美術館に書院を再現するなど、世界に日本の建築文化を紹介。1976年(昭和51年)から行われた桂離宮の大修理では現場の責任者を務めた。

猪の目障子ですなあ。

イメージを変えて 瞬間的にワッと驚かせるのが料亭。

明治の末は、日清戦争と日露戦争で大金持ちが生まれた。凝った普請道楽ができた。竹に加熱した時代がありました。ここも京都から30人が3年かけて来たというが、工期の長いのを楽める、お大名のやり方だった。この北山の丸太、すごい値段ですよ。施主はすごく勉強していった。時には諏訪湖で釣りを楽しみながら。よい旦那は、通訳なしで全部知っていた。施主も棟梁も楽しめた時代。

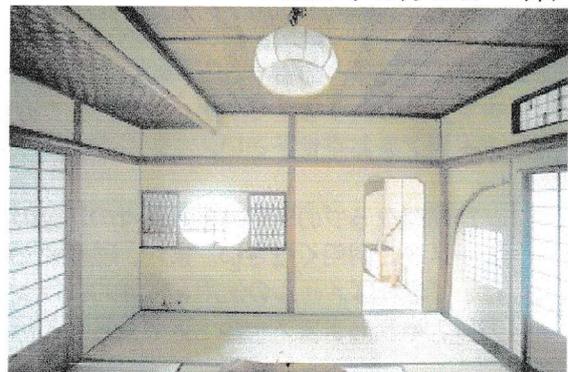
まずは、材料の選定。この二股の竹はおめでたい。京都には残らなかったものが、ここに残っている。これだけのものはない。煎茶を飲ませて、竹を楽しんだらいかがでしょうか。抹茶よりよいですよ。日本が世界に誇れるものは竹しかありません。ここから発信なさったらいかがですか。先人の知恵を解明しないとつたいない。もう二つと集まりません。これが本当の日本文化です。

建築学科や美学専攻の学生はんが、学ぶ場所にしたらいかがでしょう。お手伝いしますよ。信州の名所にしましよ

うや。

秀逸な珍竹をへんちくりんと言いました。これだけ立派な木が見直される時代です。ほんまによいのは、凝縮文化です。日本人は、凝縮することがうまいです。狭いところほど心が通じる。伝統的な建築のよさを知らない、もつたいない。えらい、いいのを見せていただきました。

<2007年12月19日 (木)>

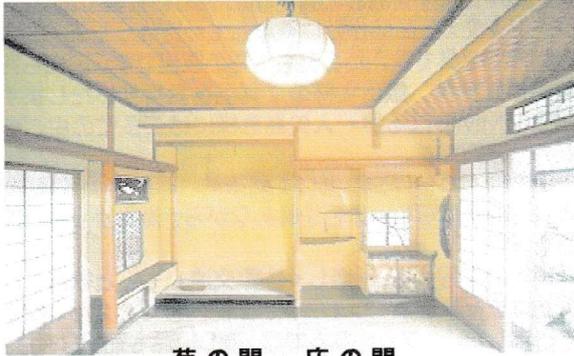


菊の間：猪の目障子と火灯口

※写真3枚 五味講師よりご提供いただきました

信州から全国へ竹文化をおろして欲しい、信州は日本一環境のすばらしいところ

これだけたくさん えらいこっちゃ、いかに先々代の知恵であるか。ここは日本（文化）の一番大事なところと確認してほしい。なぜ傑出しているかを、わたしも頑張って知恵を出して、ここの先々代と対抗したい。信濃は、日本一の竹の名所となります。これだけ凝縮したところは少ないです。明治の末に、竹を扱う秘伝書が本になりました。先々代は、すごい本を買っているんですよ。初期の数寄屋では、北山丸太を使いました。この北山丸太、どうやって運んだのか大変なものです。また、へんちくを人を使って集めさせた。それは、むっちゃ高いですよ。総買（そうがい）、全部買ってし



菰の間：床の間

丸いもの、黒木の館、これは聖武天皇の頃からです。四角柱の公務を離れて、自分の家では丸太を使った。昔からあったわけです。これを利休は、秀吉をやわらかくつかむのに使いました。聚楽第の金箔の反対のことを、四畳半の中へ凝縮しました。やわらかく、落ち着き、無駄のない空間が四畳半です。そこへ、能の所作を入れていきました。それが、茶道の作法になっていくわけです。何歩でどうするといったお手前が、ひとり歩きます。大切なことは、作法より凝縮の空間構成を勉強することなんです。黄金比と矩形（かか割り）は、似ていませんか。人間の立ち振る舞いは、洋の東西を問わず共通しています。利休の審美眼は、すごいです。

椿は日本原産です。かつては松・竹・椿（ちん）が、おめでたいものでした。梅は江戸時代からおめでたいに、加わったものです。こうした植物の体系を建築家が勉強しなければいけません。あまりにも、タテ割りタテ割りで。東大の農林の中に建築科ができたことはいいことです。日本の柔構造、ヤジロペー式のよさがようやく解明されてきました。ドイツ式の力（ちから）には力（ちから）の筋交いを、踏襲する必要はありません。桂離宮には、明治20年代に新文化で筋交いが入っていました。私は、修理のときこれはずしましたが、神戸の震災でもなんともありませんでした。

長野のみなさんをお願いします。ここ「信濃」を東京から来て、憩えるところにしてください。ここが理想郷です。文化を楽しめるゾーンにしてください。なんの憩いも楽しみもないブローラー式の量産された箱からの開放です。この竹一本、すごい値段ですよ。こういうやわらかい調子に、入りたい。近世第一の建物ですよ。

明治天皇陛下は、すぐく京都が好きでいらした。それで伏見の御陵もつくられた。平安神宮は、明治28年に全国博覧会のシンボルとして75パーセントのサイズでつくられました。陛下は、その奥のお茶席が、好きでした。続く大正、

まうんです。信州でなければ、できません。

煤竹（すすたけ）は、農家の解体から集めます。十分乾燥し、割れない。あめ色です。京の銘木屋では、料亭つくるための材料を全国から集めています。

その後数寄屋は、吉田五十八さんがシンプルにしていますが、ここ信濃は、その時代に集まったものを全部投入した。いわば時代の金字塔です。これをそのまま保存し続けたのは、たいしたものです。

やった人は、全部考えてやった。何十本より一本、二本を選んでいる。桂離宮で百本の材料を得るためには、千本が必要でした。

竹は、五、六年が丈夫です。竹の子の出ない秋に切ります。今日の研究会では、いかに竹がふんだんに使っているか、えらい手間がかかっていることを見て欲しい。よくぞ集めていただいたと感謝します。

先々代は、傑出した勉強をしはった。へんちくを追って美意識を変えていく。諏訪ならではの、ご気性、迫力。爆発的です。建築は一に材料、二にデザイン、三によい仕事です。これだけのもの集めて、信州がトップを走った。

この建物を使って研究会をすればいいですよ。若い人は勉強したいのです。勉強の場所として、貸しといたら楽しい場所に変わっていきます。わたしも、竹文化振興会に信濃のことを投稿しようと思います。<2008年7月31日（木）>

昭和の天皇陛下のご大典も京都で行われました。平成の大嘗祭で、がっかりしたことがあります。それは、菰のかわりにムシロを使っていたことです。伏見のお酒は、菰包みで東京へ運ばれました。野鳥も菰の殺菌力を知っています。菰の大事さを再認識してほしいです。

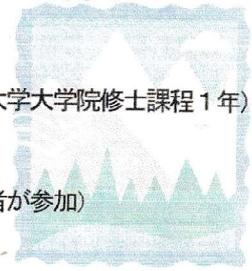
柏木先生と初めて会ったのは、30年前フランスのアンデュー（ニースの近く）での、世界の竹の会でした。私は、そこでBBCのインタビューに「竹は草でも木でもない、竹属です」と訴えました。その竹の宝庫が、ここ信濃です。ここは大変なお手本です。機械なしに、手でこれだけの仕事をされた。材料はおそらく鉄路で運ばれてきたのでしょうか。これからは、竹、笹、菰の勉強が大切です。そういうものの第一号ゾーンが蓼科の箬庵（じゃくあん）であり、信濃は箬庵の大親分なのです。信州には雑木が無限にあるのですから、和風の座具を開発したらいかがでしょうか。和具に使えるものを、誰も研究していませんが、茶心のある数寄屋大工がいいのでは。また信州の建築家には立ち上がって欲しいですね。筋交いを一本もいれない茶室をつくってほしい。基準法のただし書きをねらってください。<2008年12月10日（水）>



安井先生と柏木先生

第22回 諏訪湖チャリティ・ウォークの報告

日 時	平成 23 年 5 月 3 日 (火) 8:30 a.m. ~ 1:35 p.m. フォーラム: 12:00 p.m. ~ 1:35 p.m. (於: 釜口水門管理棟会議室)
研究発表	「ウナギは水をきれいにする? 魚と水の汚れとの関係」 小林宏樹氏 (信州大学大学院修士課程 1 年)
演 奏	岡谷市立小井川小学校音楽部 (44 名) 指揮: 武居紀代美教諭
目 的	国際交流と環境問題への意識の高揚を目指す
参加者	約 200 名 (約 120 名が歩く; フォーラムには小井川小学校音楽部とその保護者が参加)
寄付金	29,432 円 (帰路の乗船代他、諏訪湖浄化の活動資金)



諏訪湖畔にある諏訪市野外音楽堂に集合し、開会式終了後、午前 9 時より、参加者それぞれが岡谷市湊方向 (時計回り、約 8 キロ) と下諏訪方向 (反時計回り、約 8.5 キロ) の 2 方向に分かれて歩き始める。参加者同士交流しながら、沖野外輝夫先生、花里孝幸先生、宮原祐一先生の 3 講師を中心に、さらに信州大学の学生さん達 (15 人) とともに諏訪湖の観察をしながら歩く。花里班は例年通りキーポイントの 1 つであるピオトープでの生物の様子を解説。宮原班はイケチョウガイの養殖を説明。参加者は皆その結果の出るまでに 10 年もの長さが必要なこと大変驚き、環境問題を考えるにはいかに気を長く、先の先を考えることが大事かを再認識しました。特に子供たちは菱の実に大変興味を示し、また諏訪と下諏訪の間の歩道に敷かれているきれいな碎石のようなものが、実は下水処理場の汚泥処理後にできるスラグであることにびっくりしていました。そして、小さな子供も疲れもみせず、また来年も参加したいと元気よく言ってくれました。

今年は諏訪東京理科大学システム工学科市川研究室 (市川先生は諏訪湖クラブ理事) の太陽光発電を利用した「二足歩行ロボットで諏訪湖一周に挑戦」のプログラムとも偶然重なり、ウォーク参加者の自然への関心をさらに高めたこととします。

環境の勉強と国際交流をしながら、いろいろ教えてもらいながらの観察歩きはいかがでしたでしょうか。お天気も歩くにはちょうどよいくらいで、参加者一同、いい汗を流せました。

12 時 00 分より、釜口水門管理棟会議室にてフォーラム開始。まず始めに、諏訪建設事務所長、伊藤直喜氏にご挨拶をいただく。フォーラムは 3 部構成:

最初に信州大学山岳科学総合研究所で学ぶ信州大学大学院修士課程 1 年の小林宏樹氏が「ウナギは水をきれいにする? 魚と水の汚れとの関係」と題して研究発表。パワーポイントを使って、小さな子供たちにも分かりやすく説明をしてくれました。「ウナギ」はおいしだけじゃないんですね!!!

第 2 部は、「クイズ」。英語と日本語のバイリンガルで全員が挑戦。3 択問題の勝ち残り戦。毎回市民新聞社様からのご寄付のステキな賞品の「盾」を目指して、楽しくかつ少し博学になれる(?) 時間です。

最後は 岡谷市立小井川小学校音楽部の合唱。武居紀代美先生の指揮で、総勢 44 名の小学生の皆さんによる合唱はどの歌も心に響きました。特に最後の『未来へ』は感動! 涙がでてきました。子供たちからは本当に元気をもらえますね。

ありがとうございました。

諏訪湖浄化に夢を託して作られた『ブルー諏訪湖』を、エピソードを交え、譜面作りに貢献して下さった五味昭人先生の指揮で全員で歌えたことも今年の収穫です。あらためて故藤原正男様、飯田実様のご冥福をお祈りいたします。作詞者 MMM の残るお一人矢島恵様にはご多忙の中ご参加くださり感謝です。

午後 2 時 10 分に白鳥丸にて帰諏訪。5 月の薫風の中、360 度のすばらしい景色を眺めながら、湖上より今一度諏訪湖を観察。

「環境の学習」も、「楽しく国際交流」も、と欲張りなこの諏訪湖チャリティ・ウォーク、上記内容で 22 回も無事開催できました。フォーラムでは、難しい話も適切な長さで、子供たちは最後まで目を輝かせて積極的にクイズにも挑戦してくれました。毎年の家族ぐるみでの参加は諏訪湖チャリティ・ウォークの趣旨が、確実に次世代へつなげられていることの証だと思えます。実は 11 年ぶりに釜口水門管理棟会議室にてフォーラムが開催できました。会議室からは諏訪湖が一望でき、諏訪湖チャリティ・ウォークにふさわしい会場です。これは諏訪建設事務所の関係者の皆様がたのご理解と北原正義氏 (諏訪湖クラブ理事、元諏訪建設事務所長) と田代幸雄氏 (諏訪湖クラブ会員、県職員) のお二人が警備にあたってくださったお蔭です。

皆様、ご協力、ご援助、本当にありがとうございました。労力、時間、お金、等々、お一人お一人が過分に提供して下さったこと、この場をお借りして、あらためて深く感謝申し上げます。

第 23 回の予定は例年どおり、2012 年 5 月 3 日 (憲法記念日) です。今からは是非ご予約に入れておいていただければ幸いです。

第 22 回諏訪湖チャリティ・ウォーク会計報告	
開催日: 平成 23 年 5 月 3 日 (火)	
寄付金総額: 29,432 円	
支出	ポート 25,000 円 フォーラム会場費 0 円
支出総額:	25,000 円
寄付金残高: 4,432 円	
備考:	<ul style="list-style-type: none"> ・その他の支出 (団体保険、通信費、チラシ等) は JALT 会計より支払う ・寄付残金は JALT 会計のスコット・ピーターズ氏が JALT 会計とは別に保管 ・寄付残金は 20 周年記念の際に植えた樹木の維持管理等、必要時のためにプールしておく (この件は H21 年に諏訪湖クラブ 役員会でも了承済み)

文責 諏訪湖チャリティ・ウォーク責任者 金子 田美

沖野会長、二つの受賞 おめでとうございます

沖野外輝夫会長が、このたび諏訪湖浄化の功労者として国際ソロプチミストから、また 千曲川の生態学術研究で日本河川協会から表彰をいただきました。

国際ソロプチミストアメリカは、日本中央リジョンが創立25周年を記念して国際奉仕先を全国のクラブより、推薦依頼しました。ソロプチミスト諏訪では、沖野名誉教授を推薦くださいました。その推薦理由は、汚染湖沼ワースト3であった諏訪湖の浄化に尽力したこと、諏訪湖を手本に全国の湖沼の水質浄化に取り組んだこと、諏訪湖クラブを組織し自然エネルギーの地産地消による炭酸ガス削減をめざす取り組みをしたこと、県内外のソロプチミストにアドバイスしたことなどであります。沖野会長は、国際ソロプチミスト第I地区（長野・静岡・三重・愛知・岐阜）の52クラブの代表として、栄えある受賞に輝きました。

また日本河川協会からは、平成23年度河川功労者としての表彰を受けました。国土交通省北陸地方整備局千曲川河川事務所が、推薦しました。信濃川水系の一級河川である千曲川について、千曲川河川生態学術研究会の代表（現在は顧問）をされるなど河川整備、管理、利用等に関する各種学術的な研究を行い、河川改修の現場担当者への生態学的視点普及に貢献したことが評価されました。

沖野会長、ダブル受賞、まことにおめでとうございます。



メールアドレスの登録のお願い

諏訪湖クラブメーリングリストへ参加しませんか？

当クラブでは、設立当初より、理事会および役員メンバーでメールを通じて連絡や情報交換を行ってきました。この中ではより多くの方にお知らせしたい内容などもやり取りされております。そこで、4月の理事会および総会の折、役員に限らず、一般会員にも開放してより多くの方に登録していただきたいということで合意しました。総会後にお申し出頂いた方など、すでに何名かの方はメールアドレスをご登録いただき、情報交換のお仲間に加わって下さっています。

もし、よろしければ この『諏訪湖クラブ・メーリングリスト』に参加しませんか？

ご希望の方は下記必要事項を明記の上、メール（FAXでも可）にてお申込み下さいますようお願い致します。



件名 諏訪湖クラブ・メーリングリストに参加希望

1. ご氏名
2. メールアドレス
※ FAXの方は明確にお間違えのないようにお願いします
※ 登録希望アドレスからメールでお申し込みの方は、必要ありません
3. 電話番号
4. FAX番号

お申込み メールアドレス e-suwa-info@lake.gr.jp
FAX No. 0266-57-5019

理事会報告

- 第 35 回 日 時：H23 1 月 23 日（日） 午前 10 時～12 時
出席者：沖野、金子、上島、宮坂、北原、宮原、市川、中島、高木
内 容：
1. ニュース 10 号の発行について
2. 平成 23 年度総会について 5 月 8 日（日）午後 2 時
3. 今後の予定について
 1) 諏訪地域エネルギー協議会
 2) チャリティ・ウォークの開催
 3) 諏訪湖水質浄化（全国一斉水質調査、淡水真珠養殖）
 4) 水質制度改革国民会議
4. その他
- 第 36 回 日 時：H23 2 月 27 日（日） 午前 10 時～12 時
出席者：沖野、金子、北原、小口武、上島、宮坂、市川、宮原、高木
内 容：
1. 23 年度総会の日時、場所の確認
2. 諏訪地域エネルギー協議会について
 2 月 25 日開催 40 数名出席。当クラブ 8 名出席
3. 信州自然エネルギー協議会（仮称）への参加について
4. 全国一斉水質調査長野県内結果
5. 諏訪湖浄化工法検討会
- 第 37 回 日 時：H23 3 月 20 日（日） 午前 10 時～12 時
出席者：沖野、金子田、北原、宮坂、花里、宮原、高木
内 容：
1. 花里理事新刊紹介
2. 高島環境ボランティア基金 水質調査部会へ 20 万円余 宮原理事執行
3. 地震の義援金 栄村へ会員ひとり 500 円程度 上限 10 万円にて送る
4. 淡水真珠実験 梅崎佳子氏に漫画化依頼、高島城堀でも並行して実験を
5. チャリティ・ウォークについて
6. 食育イベント コシアブラの会（5 月 14 日） について
7. 天竜川流域エネルギー協議会連携について（北原）
8. その他
- 第 38 回 日 時：H23 4 月 24 日（日） 午前 10 時～12 時
出席者：沖野、金子、長崎、北原、宮坂、花里、宮原、上島、
市川純、市川康、小口武、高木
内 容：
1. 栄村へ義援金 10 万円 振込み済報告
 東北関東大震災へも 23 年度会費から義援することを総会に諮ると了承
2. 信州自然エネルギー協議会（仮称） 4 月 28 日開催、会長出席予定
3. イケチョウ貝 3 月に高浜沖へ投入 室内飼育もあり
 別途高島城の堀での実験も計画したい
4. 総会の打ち合わせ
5. チャリティ・ウォークの打ち合わせ
6. 「みつばちの羽音と地球の回転」自主上映会の実行委員会立ち上げを承認
7. その他



企画・編集・発行 諏訪湖クラブ事務局

〒392-0017 諏訪市城南二丁目 2362

TEL/FAX 0266-58-0490 E-mail e-suwa-info@lake.gr.jp

諏訪湖クラブニュース

No. 11